

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年8月4日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300864
法人名	有限会社 うへの福祉会
事業所名	グループホーム うへの
所在地	鹿児島県鹿屋市上野町5200番地1 (電話) 0994-40-3181
自己評価作成日	平成28年6月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年7月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは、利用者様・ご家族様にとって、グループホームうへのが、皆様の”安心できる家”であるために、以下の事に努めています。

- ・利用者様お一人おひとりのニーズの把握と実現に向けた工夫。

利用者様と目線をそろえてお話を伺ったり、自由に感情表現ができる雰囲気を作り出すことで利用者様の「真のニーズ」を汲み取り、生き生きと暮らしていくことができるように支えます。

- ・利用者様同士が信頼関係を築いて、ともに生活していく「仲間」であるということ、を促進する支援。

創作活動やレクリエーション、あるいは日常生活のちょっとした場面を通して、ともに楽しみ、ともに達成感を感じていただけるようお手伝いします。

- ・適切な環境支援と設備。

リクライニング式車いすに乗ったままで全身浴槽に入れる特殊浴槽を備え、身体が不自由になっても「お風呂に肩までつかれる喜び」を実現します。

また、うへの福祉会体育館が隣接(28年3月完成)し、もしもの時の避難所としても活用できます。

- ・医療支援者との信頼関係に基づく、看取りまでを支える支援体制の確立。

医師や訪問看護ステーションとの連携を心掛けて、利用者様の事なら何でも相談できる関係を構築し、利用者様の安心に繋がります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は同系列の有料老人ホームやデイサービスに隣接しており、事業所間の協力体制が築かれている。民家にも接しており日常的に挨拶等を交わす環境にある。
- ・施設の体育館は事業所の運動会等のイベントで使用する他、地域に開放し積極的に利用してもらうよう働きかけており、災害時の避難所としても鹿屋市の指定を受けている。
- ・地域の中で気軽に認知症について相談を受けたり、福祉の情報発信にも取り組んでいる。
- ・特殊浴槽の設置により、利用者の生活の質を確保すると共に職員の負担軽減が図られている。
- ・利用者・家族の意向に沿って看取りまで支援できる体制を、在宅支援診療所・訪問看護等との協力を得て整えている。
- ・職員の資格取得を支援し、サービスのレベルアップに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開所時より掲げる理念を大切に、毎週月曜朝、利用者様・職員と一緒に唱和をして、日々のケアでの実践に繋げている。	独自の理念をさらに見直し、事業所内に掲示している。毎週月曜日の朝、職員と利用者と一緒に唱和している。毎月の職員会議で理念に沿った支援が行われているか振り返りながら実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域行事などにも参加して交流している。今後は、体育館を活用しての交流も展開していく予定である。	町内会に加入し、回覧板等で地域と情報を共有している。敬老会などの地区の行事等にも積極的に参加している。中学生の職場体験学習や専門学生の実習受け入れなども行っている。施設の体育館を住民にも開放したり、近所からの差し入れや認知症の相談にも対処するなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	鹿屋市地域包括ケア推進サポートワーカーを配置し、認知症相談窓口「オレンジの窓」の看板を掲げている。グループホーム、体育館等は、鹿屋市指定災害時避難所となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年6回開催する運営推進会議の中で、運営状況や活動状況を報告し、出席者の皆様からの貴重な意見を職員全体で共有して実際のサービスに繋げている。</p>	<p>会議は定期的に行われ、ホームの行事や状況報告、利用者の状況や事故報告、外部評価の報告などをして、意見交換を実施している。施設の体育館活用や認知症カフェの取組みを協議して運営に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>窓口、あるいは電話で話す中で疑問な点など意見交換ができる関係を築いている。運営推進会議の中でも、市町村担当者へホームの取組み等開示している。</p>	<p>市担当者とは、更新時や困難事例など必要に応じて電話や窓口に出向き情報を提供して助言を貰っている。生活保護の担当者とも連絡し合っている。運営推進会議に参加して実情を知ってもらったり、市主催の研修会に参加して連携を深めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>内外研修等で学びを深め、利用者様が安心できる環境作りに努めることで、身体拘束の必要がないケアを当たり前としている。玄関の施錠については、常識的な戸締り＝夜間帯のみ行っている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会でマニュアルに沿って研修会を実施している。事例検討などで職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉や薬の拘束についても日々確認し配慮している。玄関は昼間は施錠せずに、外出傾向の利用者には見守りや同行などを行い、安全な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を中心に研修に参加し、職員全員に周知することで、全員が高い意識を持ち、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	福祉サービス利用援助事業、成年後見制度を利用されている利用者様について、その実際と研修等学びの場において理解を深め、支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	書面による重要事項説明を確実にし、時間をかけて契約書を作成することで、利用者様やご家族の不安を、極力軽減できるように努めている。また、入居後も、適宜相談に応じている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付箱の設置や、面会時・電話対応での意見聴取、あるいは家族会での意見交換を通して忌憚のない意見を述べていただく機会を設け、向上に繋げている。	利用者からは意見や思いを把握するように努め、小さな声も聞き逃さないケアを心がけている。家族からは面会時に職員から声かけして要望等を聞いている。便りや電話等で対応もしている。出された要望により、利用者の転倒等の報告を家族の複数に行う等、サービス向上に役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回の職員会議あるいは個別に話を聞く場を設けて意見や提案を事業所・法人の向上に繋げることができるように努めている。</p>	<p>管理者は職員会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、代表者や施設長にも報告し反映させている。相談事は個別に聞き適切に助言をしている。体育館利用についての提案も検討中である。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の心理的安定や向上心が、結果として利用者様のより良い暮らしに繋がることを理解し、職場環境整備に努めている。体育館についても、職員の福利厚生に寄与するものである。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>現職職員の半数以上が、当事業所に勤め始めてから介護福祉士資格を取得しており、新規入職職員についても、自然と意識向上が図られ、研修参加を促進することで一人ひとりの向上に繋げている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修の場等通して同業者との交流を促し、今後は体育館を活用して同業者との交流・親睦を図る機会を設けて行く所存である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>コミュニケーションを通して信頼関係を構築しながら、ご本人の要望に少しでも寄り添えるように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>支援の基盤となるご家族との信頼関係作りに努め、不安の軽減と要望に応えられるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>今何が必要なのか、ニーズを的確に把握し、実践できるように態勢を整えている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>心に寄り添うケアを心掛けて、利用者様同士・職員が仲良く、楽しく生活していけるように支えている。</p>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人・ご家族との連携を大切にしながら、面会時だけでなく、日頃より電話連絡等を行い、支えていく関係作りに努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>暑中お見舞いや年賀状などを出して、近況報告を行ったり、電話での報告・会話など楽しまれる方もいる。</p>	<p>一人ひとりの生活習慣を尊重し、年賀状や暑中見舞状を支援したり、電話の取次ぎなども行っている。親戚や友人・知人の訪問を奨励し、お茶を出すなどして継続的關係が途切れないよう働きかけている。家族の協力で外出や外食・墓参・理美容院利用などの際にも支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>お互いを助け合い、支え合えるよう、職員が間に入り、利用者様同士の交流の支援を行っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>転居先、あるいは入院先への情報提供はもちろんだが、施設内で看取りを迎えられた事例についても、ご家族のその後まで支える必要性を理解し、実践している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	決して”押し付ける”のではなく、本人の意向に耳を傾けて、それに沿えるように努めている。困難な場合は、ご家族とともにご本人本位に検討している。	日々の関わりの中で耳を傾け、声を聞き逃さないように努め、把握したことは記録に残して職員で共有している。表情などから思いや意向の把握を行っている。困難な場合は家族や関係者からも情報を得、利用者の視点に立って職員で話し合い、本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とご家族からお話を伺う事を最優先として、的確なアセスメントの下に、より良いケアの実現を目指している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握とそれの職員周知、意識統一の為、申し送りノート等活用して、実践に生かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じてサービス担当者会議を開催して意見交換し、柔軟な介護計画の立案・変更が行えるように努めている。また、月1回ケース会議を開催し、利用者様のニーズの把握と実現に努めている。	本人・家族の要望を基にして、担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。月1回はケース会議やモニタリングを開催し、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録や介護計画チェック表等を独自に作成し、職員間での情報の共有や介護計画の作成・見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>お一人おひとりのニーズに合わせて、介護保険適用内外の柔軟なサービスを取り入れて、多機能化に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域資源の発掘と活用を心掛けている。今年4月には、町内会グランドゴルフ大会に、利用者様・職員参加すべく企画・調整を行った。(残念ながら、当日雨天の為、大会中止。)</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医の訪問診療や往診、あるいは必要時の訪問看護導入(かかりつけ医指示)など、的確にサービスを利用して、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医は本人や家族の希望を大切にして、家族対応で受診している。在宅介護支援診療所及び歯科の往診、訪問看護ステーションとの医療連携体制が整っており、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、口吊の関わりの中にとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医（診療所）の看護師や、訪問看護の看護師が迅速に対応できるように、記録・情報共有・協働の体制を整えている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時等にご家族や病院関係者とカンファレンスを重ね、情報交換や課題の解決に努めて、密な連携関係を築いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご本人の自尊心にも配慮しつつ、ご本人の状態についての理解の共有を図っている。昨年度家族会では、グループホームうえのでの看取りについて、ともに考えていただく機会を設けた。</p>	<p>入居時に指針に基づいて説明し、同意書をもっている。重度化等の場合、家族の意向を確認し、在宅介護支援診療所及び訪問看護ステーションと連携しながら支援に取り組んでおり、看取り介護の実績もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時のマニュアルを備え、器具の使用方法や通報の仕方等の研修を重ね、講習会に参加して実践力が身に付くように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練を行い、消防署や、地域の消防団、地域の協力者とともに安全を守ることが重要と考え、取り組んでいる。</p>	<p>年2回夜間想定で避難訓練を実施し、1回は消防署立ち会いのもと行っている。スプリンクラーを設置し緊急通報装置に町内会長を登録し地域への協力が築かれている。町内放送もある。災害時の食料や水・缶詰・カップラーメン等の備蓄がある。カセットコンロなどもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様お一人おひとりの個性を尊重し、日常何気なく掛ける一言にも自尊心やプライバシー保護について配慮し、ケアを実践している。	法人全体で外部講師による研修会を行い、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないケアに取り組んでいる。入室時にはノックをし、入浴やトイレ誘導などでは声かけし本人の意思を確認しながら羞恥心に対する配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活や普段の生活の中で希望を汲み、また、選択肢を示すことで、自然と自己決定ができる環境作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの生活リズムを大切に、また、会話の中で、どんなこと・ものが好きか、どのようなことに取り組みたいか等伺い、工夫しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎朝鏡を見て髪をといたり、ひげを剃ったりできるように支援して、必要な方には適宜介助して対応している。また、おしゃれへの配慮も心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年1回の利用者様嗜好調査、あるいは日常の会話から好みを把握して、喜んで頂けるように支援している。野菜の下ごしらえや、食事後の片付けに数名の利用者様取り組んでいる。	敷地内の厨房で調理された副食を、個々に応じた食事形態で提供し、職員と一緒に食事や片付けを行っている。年1回、嗜好調査を実施し、旬の食材を使用し誕生会や行事食・バーベキュー・おやつ作りなどで食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調の変化に早期に気付くという観点からも記録を大切にし、ご本人に合った食事の量・食器に配慮して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のお茶うがいを実践し、お一人おひとりの状態に応じたお手伝いでの確な口腔清潔を支援している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失敗が少なくできるように、排泄チェック表を活用して、お一人おひとりの排泄の特徴の把握に努めている。適切に声掛けを行う事で、訴えが難しい方について、支援している。	排泄チェック表で習慣を把握し、自尊心に配慮しながら、声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。日中は布パンツ使用の利用者もいる。牛乳や運動を取り入れ、自然排便と排泄の自立を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供し、日々の運動も取り入れている。お一人おひとりに合った食事や水分提供量を把握して支援し、必要時は各所に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回入浴。体調の動向を職員間で共有し、ご本人に合わせた湯温・入浴時間に配慮している。体調不良時等、清拭にて清潔保持している。	通常は週3回であるが、個々人の体調や希望に沿って配慮している。一般浴と機械浴があり、車椅子の利用者にも安心して入浴を楽しめるように機械浴で支援している。清潔保持のシャワー浴も実施している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週1回の寝具の交換を実施。日頃から、寝具の整理整頓に努めている。寝間着への更衣を希望される方はそれをお手伝いして安眠に繋げ、日中も休息できる場・時間を設けている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが薬の目的を理解し、状態の観察に努めている。服用時は二重三重の確認で間違いの無いように徹底している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ご本人の苦痛になる事がないように、できる事をできるところまで取り組んでいただいたり、好きな事には積極的に取り組む事ができるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日は庭での外気浴を心掛けて、ご家族の協力も得ながら、外出して楽しむ事ができるように、支援している。</p>	<p>敷地内の散歩やテラスでの外気浴を日常的に行っており、年間計画で花見や少人数での買い物に出かけたり、地域行事に参加している。家族と墓参りや外食・理美容院利用・自宅訪問等に出かける利用者もあり、家族の協力も得ながら外出の機会を増やせるよう支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>1名の方が、千円程度の小銭を管理していらっしゃる。お金を使う機会であるが、グループホーム内での生活においては、実際はない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族や身近な方宛に、年賀状や暑中見舞いをしたためていただき、電話については可能な範囲で要望に応えることができるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔維持に努めて、季節を感じる事ができるような行事を取り入れたり、飾りつけを行ったりして、工夫している。	リビングは天井が高く採光や室温等に配慮した環境で、季節の作品が飾り付けられ、ソファ等で居心地良く過ごせるよう工夫されている。広いテラスは、外気浴や行事にも利用され、のんびりと過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室での時間も大切にしつつ、気の合う仲間たちと一緒にテレビを観たり、おしゃべりをしたりと、思い思いに過ごせるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好まれるものや、馴染みのものを部屋などに置いて、居心地良く過ごせるように工夫している。皆様、なかなか個性的なお部屋になっている。	ベッドと寝具・クローゼット・洗面台が備えられた居室に、本人の必要に応じてタンスや椅子・ソファ・衣装箱・写真等を持ち込み、時計や作品などを出窓に飾ったりして居心地良く過ごせるような工夫がされている。寝具はリースで清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケース会議や職員会議、あるいは毎日の申し送り等で状態の把握に努め、自立と自律の両方の観点から、安全面に配慮した環境作り、声掛けなどを行っている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない